

五山の送り火 無事行われました！



京都は8月16日三年振りの「五山送り火」。直前はかなり強い俄雨が降り、無事燃え上がるのかと、やきもきしたのですが、ほどなく雨も上がり、定刻にやや遅れて、京都盆地在赤い松明の炎で囲まれました。

京都市民の一人として、三年振りの夏の風物詩を見ることが出来たという感慨もありましたが、今年初盆を迎えるお精霊の方々の、生前の面影が目にかび、厳粛な気分になりました。

とりわけきんきサロンにご縁の深かった、鈴木泥雲さん、東風柳朴伝さんのご冥福を、心よりお祈りいたしました。

鈴木泥雲さんの追悼歌会は、蝸牛庵歌会のレギュラーメンバーさん達が中心となり、9月18日に京都市内で実施される運びとなっております（申し込みはすでに締め切られております）。追悼歌会の様子は、いずれ、この通信でもご報告したいと思っております。

9月度例会に足を運んで下さった方々は8名でした。坂東さんの歌、ツアーで行った今年の左大文字の真下での体験。「炎の臭いを確かめる」の表現が新鮮で臨場感あると高評価集まりました。久々登場の浮游さん、断トツの一席。そらまめ文庫から出版の「故郷の郵便番号」の紹介もありました。表紙絵は奥さんの澄子さん作。素敵なお歌集です。ぜひご一読ください。今回お休みの方々にも、10月度例会でお目にかかれますことを、鶴首お待ちいたしております。

(いぶ記)

【288 回歌会結果】

- 1
神社の木陰の
散歩道は
涼やかな匂い
昨日より
一步進んだ気配
玉虫 13点 二席
- 2
思いはひとつ
皆んなで汗して
編んだ糸
この夏
忘れない
小倉はじめ *
- 3
夜毎 飛来する編隊
壕で 肩寄せ合って 震えていた
瞬く間に 隣町は紅蓮の炎
あの夏の日
遠くて近い
ひろし 6点
- 4
ウクライナのニュースを
耳にし始めたころ
怖かった
それを感じなくなった自分に
更に恐怖する
青藍 8点

5

鴨川を望む屋上で
侵攻やまぬ
西方向に
思いを馳せ
グラス掲げる

黒田節子 *

6

海に沈みかけた夕日が
雲に阻まれて
光を失った
赤い満月のような
太陽が落ちてゆく

二宮信子 11点 三席

7

お精霊(しょうらい)さん
コロナも連れて行って下さい
マスクを下げて
炎の臭いを確かめる
左大文字の麓

坂東和代 10点 次点

8

コロナ闊歩
見舞い人が来ないケアハウス
前栽の木(むく)権(げ)
陽を浴びて
ねむたげ

いぶやん 6点

9

俎上にていきなり
担当執刀医はお休みです！
濃厚接触者となり…
こんなんありー？
あるのが今 コロナ時代よ

HIKARIKO 7点

10

竹林に
流れる風が
五百羅漢の
ひそひそ話を
運んできた

浮游 20点 一席

*印は5点以下

- (参加者：8名) いぶやん・小倉はじめ・
黒田節子・玉虫・二宮信子・坂東和代・
浮游・ひろし
(歌のみ：2名) 青藍・HIKARIKO
(五十音順・敬称略)

【十月例会のご案内】

日時：10月2日(日) 午後1時~5時
会場：ウイングス京都 2階第2会議室

【十月昼食会のご案内】

手毬鮎と日本茶「宗田」・予算2000円程度。
参加希望者は、10:50に地上部の烏丸御池交差点
南西角付近にご参集下さい。

【みやこ鳥(No19)発行にむけて準備開始】



きんきサロンの不定期発行機関誌「みやこ鳥」
No18は2018年9月発行で、丁度4年前でした。
204頁の大作でしたが、そろそろ出しても
いいのと違う！との意見もあり、今から準備を
始めて、来年9月に発行。折しも300回を迎える
ので記念誌としたい。そんな事を考えており
ます。300回記念らしくの企画は？ 特集記事
は何にするの？ などなど皆さんと相談しながら
詰めていきます。

上段は、創刊号(1998.10)からの写真。「みや
こ鳥」のロゴは故泊舟さん作。下段は、60回ま
での歌会ホームグラウンドとなった光琳閣外観。
今は解体されマンションに置き換わっていま
す。様々な思いが詰まったものに仕上げたいと
考えています。
(はじめ記)